



2021年10月16日～12月26日 「つくりかけラボ05 松本力 | SF とりはうたう ひみつを」レポート

すこしふしぎ

# 宇宙巣箱のSFラジオ局より、SF なはなしをお届けします。

[撮影：須崎隆善]

「SF とりはうたう ひみつを」では、みなさんが体験した「SF なはなし」を募集しています。集まった「SF なはなし」は、会場に掲示され、好きなものを読み上げて録音することもできます。今回は、作家の松本力さんに「宇宙巣箱のSFラジオ局」についてお聞きするとともに、集まった「SF なはなし」の一部をご紹介します。

——なぜ「ラジオ局」を作ろうと思ったのでしょうか。

鳥は、場所を転々と変えて生きていくので、住み着くことを想定した巣箱は、人間にとっての「居場所」を投影しているものだと思うんです。そこで、人間サイズの巣箱とはなんだろうと考え、この「宇宙巣箱」を作りました。

そのなかで、間接的なコミュニケーションが生まれると良いなと思い、「SF なはなし」を募

集することにしました。そして、自分ではなく、どこかのだれかが目の当たりにしたことを代読する。その行為が、ラジオDJのようだったので、ラジオ局にすることにしました。

——実際に「宇宙巣箱のSFラジオ局」を作ってみて、なにか感じたことや気づいたことはありますか。

みんな、心のなかにラジオを持っているんだな、と思いました。言葉にはしていないけれど、心はつねになにかを発信していて、その心の手をラジオのように聞いている。また、自分のアニメーション作品の根っこには、「ぼくにはこう見えるけれど、あなたにはどう見えますか」という想いがあるのですが、そういったことを問いかけるような部屋になっていると感じました。

——最後に、集まった「SF なはなし」を読んだ感想をお聞かせください。

「SF なはなし」には、エビデンスがありません。そういう白昼夢のような体験が、みなさんそれぞれにあることを知りました。そして、そのエビデンスのない体験が、どこかのだれかが代



あめがあがった日。でんちゅうで、わたしが、でんちゅうからとんだこと。

いつも電話をそろそろかけようと思う人から先に電話がかかってくる。思いが伝わっているのか不思議に思う。

いえでがっこうにいくときはやくおきないといけないけどおきたくないときとおきたいときがある。なつは、はやくおきれる。ふゆは、おきれない。



4～5年くらい前に動物園にいたら犬とライオンがいっしょにいた。



読することによって、根拠のない確信を得ていく。「再生」という字は「再び生きる」と書きますが、読み上げることで再生され、体験が再び生きていくことが、とてもおもしろいと感じました。

[話し手：松本力 (本展作家)]

つくりかけラボ05  
松本力 | SF とりはうたう ひみつを  
会期 2021年10月16日(土)  
～12月26日(日)  
会場 4階 子どもアトリエ  
観覧料 無料

